

## 自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

提案者	講評
山形県朝日町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの取組の筋道を記載してほしい。取組内容の見通しや実装までの流れが不明であるため、具体的にイメージできる提案書にしてほしい。</li> <li>・コースマーケティングは専門家の意見ではないか。これまでの取組との整合性が見えない。 専門家と自治体側との間でコンセプトの理解と実施への意欲が共有されていない印象を受けた。</li> <li>・プラットフォームの構築をした自治体は多いが多くはうまく機能していない。住民や事業者の意識を変え、行動をおこす具体的な方策が見えない。</li> <li>・空気を強調している点はユニークであり、特徴を出せていると思料する。</li> <li>・実績はあるが、やりたいことと専門家があっていないのではないか。</li> <li>・実績のあるものを取組で活かせていない。仕組みづくりありきではなく、これまでの実績をまず可視化し、いかに「社会「経済」の側面での効果も再認識し、いかにその流れを強化できるのか、さらに新たなアイデアは何かを楽しく発想するところから始められると良い。</li> <li>・マーケティングは既にあるものを活かす取組である。コースマーケティングに絞ることで他の可能性を見失ってしまう懸念がある。都市が取り組みたいことと提案書に記載する言葉の適合性を確認してほしい。</li> <li>・都市の意図する取組と専門家の不整合を感じた。</li> <li>・コースマーケティングに絞ることで可能性が狭くなっているように考える。必ずしもコースマーケティングでなくても良いのではないかと思料する。</li> <li>・コースマーケティングガイドブック作成やポイント制度の構築に伴う費用についても不明瞭である。市民を巻き込んだ手法が実践できるのか不明である。</li> <li>・アウトプットについては課題があるが、具体的な取組をやっている実績はあると感じた。副町長も提案の内容を理解しており、専門家との関わりも確認できたかと思う。</li> </ul>

- ・提案様式1における積算と見積書における積算の関係が不明（例えば、様式1のアドバイザー人件費には、見積の1号直接人件費に加えて、2号直接人件費のどの部分を加えているのか不明）である。”
- ・官民連携プラットフォーム構築の前に、持続可能なプラットフォームがどのようなものであるか、都市と住民で一体になって考えてはどうか。
- ・どのような商品・サービスであれば地域が独自に取り組むことができるか検討してほしい。
- ・専門家から自走するエコシステムの助言を受けてほしい。
- ・1年後のプラットフォームの参加や活動にKPIがあった方が望ましい。”
- ・りんごづくりや空気を資源とした取組はSDGsらしい提案であると感じた。専門家についても環境の専門家であるため、次年度以降にSDGs未来都市の提案に繋がると良いかと思料する。
- ・町長、副町長ともに提案をよく理解していた印象である。
- ・コーズマーケティングによる環境問題解決を掲げているが提案の中であまり改善点が見られない。
- ・コーズマーケティングの手法に絞ると問題に対してずれが生じているように感じる。